

9. 生物

9.1 海生生物

島根原子力発電所3号炉増設に伴う環境影響調査において、周辺海域における魚等の遊泳動物に関する漁獲調査を実施している。調査結果によれば、主な出現種はウマヅラハギ、オキエソ、ハチ、カワハギ、イサキ、メバル、ホウボウ、マアジ、ホソトビウオ、サバ類、ヤリイカ、スルメイカ、スズキ等である。

なお、周辺海域において、夏季にクラゲの発生が確認されることがあるが、クラゲの発生により安全施設の安全機能が損なわれた記録はない。

9.2 植生

発電所周辺は、常緑広葉樹を主体とするヤブツバキクラス域に属している。主な現存植生は、自然植生として、社寺林を中心にモミーシキミ群集、ヒメアオキーウラジロガシ群集、ヤブコウジースダジイ群集等、日本海に面した海岸風衝地でマサキートベラ群集、オニヤブソテツーハマビワ群集等が見られる。また、河辺、湿原、塩沼地及び砂丘には、ヨシクラス、ツルヨシ群集、砂丘植物群落等が見られる。

代替植生としては、山地及び丘高地に、コナラ群落、シイ・カシ萌芽林、コバノミツバツツジーアカマツ群集等が見られ、平地にはススキ群団等の草本植生が見られるほか、アカマツ植林、クロマツ植林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、畑地雑草群落、水田雑草群落等が見られる。

なお、島根原子力発電所において、周辺の森林火災により安全施設の安全機能が損なわれた記録はない。